

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	移住総合支援窓口の運営	進捗状況	B	担当課及び係名	まちづくり課 まちづくり推進係
基本目標	1：添田町への新しい「ひと」の流れをつくる				
施策	(1)：定住・住宅対策の充実を図る				
主要施策	①：移住・定住を推進する				
事業概要	移住（定住）を希望する方にワンストップで対応する窓口				
R4年度実施内容	相談件数 258件（1月末時点）				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	0	0	0	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	相談件数 258件（1月末時点）			
	事業効果	③地方創生に効果があった（目標値を上回ることにはなかったものの事業開始前よりも改善した等）			
検証内容	【事業実績における理由・背景】				
	・近年の移住に対する相談は依然として多い。 ・その件数の多くが空き家バンクへの問い合わせである				
	【事業実施効果】				
	・移住者に対し、初期段階からきめ細かな対応を行っている ・地域おこし協力隊と連携し、制度の情報発信を進めている				
	【現状認識】				
	・多くが空き家バンクへの問い合わせである				
今後の方針（担当課）	【今後の見通し・将来予測】				
	・多くが空き家バンクへの問い合わせであるため、空き家バンク（登録件数の増）の充実を図ることで、今後も継続した移住者への関心度を維持できるものとする				
	【事業改善予定等】				
事務局意見（総合企画財政課）	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】 ・地域おこし協力隊と連携し、移住定住支援策を掲載したパンフレットの作成やホームページによる情報発信の充実を図ることで、移住希望者への関心度を図りたい				
		③今年度と同様に事業を継続する			
		移住・定住の相談は依然として多く、移住を希望する方にとっては必要な事業であるため、引き続き継続する。			

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	空き家・空き地バンク支援事業	進捗状況	A	担当課及び係名	まちづくり課 まちづくり推進係
基本目標	1：添田町への新しい「ひと」の流れをつくる				
施策	(1)：定住・住宅対策の充実を図る				
主要施策	①：移住・定住を推進する				
事業概要	空き家や空き地を貸したい・売りたい人、空き家に住みたい・購入したい人の情報登録を行い、HPなどで広く周知を図り、空き家の利活用を推進する。				
R4年度実施内容	・新規登録 11件（空き家10件、空き地1件） ・契約成立 6件 ※1月末現在				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	1,218,000	0	0	1,218,000	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	・新規登録 11件、契約成立 6件			
	事業効果	①地方創生に非常に効果的であった（実績値が目標値を上回った場合等）			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 ・空き家バンク利用希望者が多く、物件待ちの状況である				
	【事業実施効果】 ・リノベーション支援事業との連携により、空き家バンク利用希望者が増加している				
	【現状認識】 ・空き家バンク利用希望者が多く、物件待ちの状況である				
	【今後の見通し・将来予測】 ・物件登録希望者、物件利用希望者ともにわかりやすい説明、周知方法を図っていく				
	【事業改善予定等】 ・支援策のパンフレットと連携して空き家バンク、空き地バンクの周知を図る				
今後の方針（担当課）	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】 空き家・空き地バンク登録物件成立件数（年間）：3件				
事務局意見（総合企画財政課）	③今年度と同様に事業を継続する 空き家の利活用を促進するために必要な制度である。 リノベーション支援とも併せ、今後も継続する。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	地域おこし協力隊による空き家活用 (サテライトオフィスの誘致)	進捗状況	—	担当課及び係名	まちづくり課 まちづくり推進係
基本目標	1：添田町への新しい「ひと」の流れをつくる				
施策	(1)：定住・住宅対策の充実を図る				
主要施策	①：移住・定住を推進する				
事業概要	・地域おこし協力隊による空き家活用の一環として、町内の空き家を活用したサテライトオフィスを整備する				
R4年度実施内容	・空き家活用によるサテライトオフィスの整備には至っていないが、地域おこし協力隊において、役場庁舎1階のロビーの一部をお試しコワーキングスペースとして誰でも利用できる明るいフロアに改修をし、リモートワークなどにも活用されている				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	512,489	0	0	512,489	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	未実施			
	事業効果	「⑤事業の準備段階であるため効果不明」			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 ・地域おこし協力隊において、役場庁舎1階のロビーの一部をお試しコワーキングスペースとして誰でも利用できる明るいフロアに改修をした 【事業実施効果】 ・改修した役場1階のフロアで打ち合わせやリモートワークなども行われている 【現状認識】 ・空き家活用については、移住・定住施策が主となっており、サテライトオフィスの誘致には至っていない ・昨年度、ワーケーション実証実験を実施した。その内容を精査し、本町におけるテレワークの実現性について精査する必要がある 【今後の見通し・将来予測】 ・地域おこし協力隊と連携し、昨年度のワーケーション実証実験の結果を検証した上で、事業の内容を検討する必要がある 【事業改善予定等】 ・地域おこし協力隊と連携し、昨年度のワーケーション実証実験の結果を検証した上で、事業の内容を検討する ・地域おこし協力隊による役場1階の旧食堂の改修を検討したい				
今後の方針 (担当課)	②事業内容の見直し（改善）を行う（または、行った） 【目標値・理由等】 ・地域おこし協力隊による役場1階の旧食堂の改修の実施				
事務局意見 (総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する 担当課のとおり				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	目的別創業・企業者リノベーション及びサテライトオフィス支援	進捗状況	—	担当課及び係名	まちづくり課 まちづくり推進係
基本目標	1：添田町への新しい「ひと」の流れをつくる				
施策	(1)：定住・住宅対策の充実を図る				
主要施策	①：移住・定住を推進する				
事業概要	・空き家や空き店舗所有者などが、ＩＣＴ（情報通信技術）企業等が入居できるようにオフィスをリノベーションした際に、リノベーション費用の一部を支援する				
R4年度実施内容	・未実施				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	0	0	0	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	—			
	事業効果	「⑤事業の準備段階であるため効果不明」			
検証内容	【事業実績における理由・背景】				
	・未実施				
	【事業実施効果】				
	・未実施				
	【現状認識】				
・未実施					
【今後の見通し・将来予測】					
【事業改善予定等】					
今後の方針（担当課）	【目標値・理由等】				
事務局意見（総合企画財政課）	評価なし（期間内には制度化し、運用を目指すこと）				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	英彦山庭園保存活用事業	進捗状況	A	担当課及び係名	まちづくり課 歴史文化財係
基本目標	1：添田町への新しい「ひと」の流れをつくる				
施策	(2) 歴史文化遺産の継承と活用を図る				
主要施策	①：有形文化財等の保存と活用を推進する				
事業概要	旧亀石坊庭園をはじめとする「国指定名勝 英彦山庭園」の保存・保護と周知を図る。				
R4年度実施内容	『福岡県市町村名勝庭園協議会』との共催により、旧座主院庭園見学会を開催。 8/28(日) 参加者：13名 12/ 4(日) 参加者：53名				
R4年度事業費(実績額)	金額(円)	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	140,000	0	0	140,000	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	庭園見学会の開催：延べ3回開催) 8/28 13人 12/4 午前21人 午後32人 計66人			
	事業効果	①地方創生に非常に効果的であった(実績値が目標値を上回った場合等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 普段は、研修施設のため立ち入りを制限されている旧座主院庭園(現、九州大学農学部附属彦山生物学実験施設)での開催により、町内だけでなく県内各地や遠くは鹿児島県など県外者の参加もあった。 参加者アンケートでも、『非常に満足：45』+『やや満足：11』で96.55%に満足いただけている。(それ以外(普通・不満：2))				
	【事業実施効果】 前述の参加者アンケートでも、『次回も開催して欲しい』との声が多く、また、開催後にも『次はいつあるのか?』などの問い合わせもあっており、英彦山庭園への関心の高まりを徐々に感じつつある。				
	【現状認識】 今回、予定人員には達しており、一定数庭園に興味のある方がいることは確認できたが、"立ち入りを制限されている庭園の見学"というプレミアム感にも関わらず、応募者数の少なさが、そもそも名勝(庭園)に興味のある方が限られていることを証明する結果となった。				
	【今後の見通し・将来予測】 今後も、見学会の開催などにより、名勝(庭園)に興味を抱く方の増加に取り組み、名勝(庭)の認知向上を図る。				
	【事業改善予定等】 『福岡県市町村名勝庭園協議会』の加盟市町と連携を図りながら、継続した見学会の開催など、周知・認知の手法等について、検討していく。				
今後の方針(担当課)	③今年度と同様に事業を継続する 【目標値・理由等】 元々興味のある方が少ないが、今年度開催の見学会は、好評であったため。				
事務局意見(総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する 担当課のとおりであるが、より効果的な周知方法を検討する。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	民間観光プレイヤーの支援事業	進捗状況	B	担当課及び係名	まちづくり課 観光振興係
基本目標	1：添田町への新しい「ひと」の流れをつくる				
施策	(3)：観光の振興を図る				
主要施策	①：民間観光プレイヤーを育成・確保する				
事業概要	本町は観光事業や体験プログラムの担い手となるプレイヤーの増加を目指し、第1期の総合戦略事業において各種検証を行ってきた。その事業を通じて、観光ガイドの活性化や地域プレイヤーの参画が進んできており、民間による社団法人（アトチデザイン）も設立されている。第2期の総合戦略においては民間観光プレイヤーの継続支援を行い。自立や連携を押し進め、観光地域づくりにつなげていきたい。				
R4年度実施内容	第1期の事業として「観光ガイドの育成と有料化」「民間団体による旧英彦山レクリエーションセンターを活用したオートキャンプ事業の立上げ」を行った。その結果、ガイド件数やガイドプランの増加が図れた。またオートキャンプ事業は好調で施設を核にした体験プログラムも意欲的に造成されるという好循環が進んでいる。ただ、町には観光協会等の母体がないこともあり、DMOの設立については現時点では難しいことが分かった。今後は、既存の町の観光連盟の組織改編を図り、民間観光プレイヤーの参加を促進し、将来的な観光地域づくり団体の組成につなげたい。				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	0	0	0	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	観光ガイド実施件数7件 体験プログラム10件			
	事業効果	①地方創生に非常に効果的であった（実績値が目標値を上回った場合等）			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 観光ガイドによる窟めぐりや山伏体験等の自主企画、財蔵坊でのガラガラ絵付体験、アトチデザインによるオートキャンプ事業や農業体験・ジビエ体験などのプログラム造成などにより、英彦山を中心にプレイヤーの動きは活発化してきている。 【事業実施効果】 町との連携により、民間観光プレイヤーの活動の基盤づくりは進んでおり、今後はさらなる発展が期待できる。 【現状認識】 民間観光プレイヤーの活動は活発化しているものの、観光マネジメントができるプレイヤーの育成（DMO等）にまでは至っていない。 【今後の見通し・将来予測】 町には観光協会等の母体がないことや、DMOの設立については民間レベルでは難しいことが分かった。。 【事業改善予定等】 町による民間観光プレイヤーとの連携は継続するとともに、プレイヤーの参画と活動助成が行えるよう、町の観光連盟の組織改編を図る。				
今後の方針（担当課）	③今年度と同様に事業を継続する 【目標値・理由等】 支援により観光ガイドやプレイヤーの意欲は高まっている。今後も町との連携を継続していきたい。				
事務局意見（総合企画財政課）	③今年度と同様に事業を継続する 臨機応変な対応を心掛けながら支援体制の充実を図り、より民間観光プレイヤーと連携に取り組むこと				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名		にぎわい及び滞留拠点における観光整備事業	進捗状況	—	担当課及び係名	まちづくり課 観光振興係
基本目標		1：添田町への新しい「ひと」の流れをつくる				
施策		(3)：観光の振興を図る				
主要施策		②：観光施設等を効果的に利活用する				
事業概要		町のにぎわいを形成する拠点である「道の駅歓遊舎ひこさん」周辺に周囲の自然を活かした「フォレストアドベンチャー・添田」を整備し、集客力のある体験型のコンテンツを創出することで、観光客の滞在時間や回遊性を高める。				
R4年度実施内容		本年度は、フォレストアドベンチャーの整備に加え、駅舎を改修した受付管理棟や大型駐車場等の工事を発注済み。 フォレストアドベンチャー・添田の規模 面積：山林約2.5ha 駐車場約120台分 アドベンチャーコース（難易度高）4コース（38アクティビティ）、キャノピー（難易度低）コース4コース（35アクティビティ）、 ブリーフィング（安全講習用）コース（2コース（6アクティビティ）				
R4年度事業費（実績額）		金額	内 訳			
			国県支出金	地方債	その他	単費
		286,674,000	78,865,000	138,740,000	0	69,069,000
本年度事業終了後における実績値	実績値	—				
	事業効果	⑤事業の準備段階であるため効果不明（実績値がない等）				
検証内容		【事業実績における理由・背景】 令和5年4月オープン予定のため利用者の実績なし。				
		【事業実施効果】 準備段階のため効果の測定なし。オープン後は体験型観光の創出や各観光施設への波及効果が見込める。				
		【現状認識】 町内には体験型観光が施設が少なく、観光客日帰り客や短期の滞在がメインで観光周遊や波及効果が少ない。				
		【今後の見通し・将来予測】 開業後は7,000人/年の来場を見込んでおり、最終年度は10,000人/年を目標に事業を進めていく。それに伴い、観光入込客と滞在時間の増加が見込める。				
		【事業改善予定等】 特になし。				
今後の方針（担当課）		③今年度と同様に事業を継続する 【目標値・理由等】 添田町の強みである自然を活かし、体験型観光施設を整備し、「にぎわい拠点」を核とした観光入込客の増加と滞在時間を長くする取組を進める。また開業初年度の7,000人を見込んでおり、計画の最終年度は10,000人を目指していく。				
事務局意見（総合企画財政課）		③今年度と同様に事業を継続する 担当課のとおり				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	BRT利用促進事業（仮）	進捗状況	—	担当課及び係名	まちづくり課観光振興係
基本目標	1：添田町への新しい「ひと」の流れをつくる				
施策	(3) 観光の振興を図る				
主要施策	③観光施設等を効果的に活用する				
事業概要	平成29年の九州北部豪雨で被災したJR日田彦山線の区間（添田駅～夜明駅間）は、現在、令和5年度のBRT運行開に向け整備を行っている。 町では、歓遊舎や和、スロープカーといった観光施設や来年度にオープンする「フォレストアドベンチャー」と連携することで、集客力を高め、大々的に情報発信を行い、添田町への観光客を増やす。				
R4年度実施内容	本年度は、駅舎の改修や周辺整備等の工事を発注済み。完成はBRT開通までのため、令和5年度の夏完成予定。 日田彦山線 添田駅～夜明・日田駅（約40km） ※専用道区間は彦山駅～宝珠山駅（約14km）				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	0	0	0	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	—			
	事業効果	⑤事業の準備段階であるため効果不明（実績値がない等）			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 令和5年 夏開業予定のため利用者の実績なし。				
	【事業実施効果】 準備段階のため効果の測定なし。オープン後は各観光施設への波及効果が見込める。				
	【現状認識】 本町は観光施設と観光施設の距離が遠く、日帰り観光客やスポット滞在がメインで観光周遊や波及効果が少ない。				
	【今後の見通し・将来予測】 BRTが開通することによって、話題性によって観光客が増えることが予想できる。 また、英彦山やフォレストアドベンチャーや中島家住宅などのBRT沿線の観光施設を接続することで波及効果を狙いた				
	【事業改善予定等】 特になし。				
今後の方針（担当課）	③今年度と同様に事業を継続する 令和2年度の旧鉄道駅（添田・歓遊舎・豊前桝田・彦山）のにぎわい拠点の年間利用者数は30,000人超であるので、令和5年度は夏開通であることと、開通直後の話題性も加味して35,000人、令和7年度は45,000人を目標とする。				
事務局意見（総合企画財政課）	③今年度と同様に事業を継続する 担当課のとおり。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	就農支援推進事業	進捗状況	B	担当課及び係名	地域産業推進課 農業振興係
基本目標	2：添田町への新しい「しごと」の流れをつくる				
施策	(1)：農林業の振興を図る				
主要施策	①：担い手を育成・確保する				
事業概要	農業従事者の高齢化等が進み、後継者不足となっており、担い手を育成、確保、定着を図る				
R4年度実施内容	就農相談 3 件（町内 1名・町外 2名） 半農半X実践指導 1名（英彦山でカフェ経営者）				
R4年度事業費（実績額）		内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	4,469,000	0	0	0	4,469,000
本年度事業終了後における実績値	実績値	就農相談 3 件（町内 1名・町外 2名） 半農半X実践者 1名			
	事業効果	③地方創生に効果があった（目標値を上回ることにはなかったものの事業開始前よりも改善した等）			
検証内容	【事業実績における理由・背景】				
	半農半Xを実践する1名が、誕生した。（今後も継続していけるよう支援する）				
	【事業実施効果】				
	半農半Xの支援の結果、自営するカフェで、支援農園で生産した野菜をサラダ料理等に使用した。				
	【現状認識】				
	専業で農業を行うのは、生活が困難であるため、半農半X事業について、支援体制が必要				
今後の方針（担当課）	【今後の見通し・将来予測】				
	新たな制度事業を検討する必要がある。（地域を守る活動（農業）体制）				
	【事業改善予定等】				
山間部を中心に、耕作者が減少し、農業だけでなく、集落機能が低下することが予想されるため、兼業を含め、新たな体制づくりを検討していきたい。（農業部門だけでなく、まちづくり部門、福祉部門等を交えた総合的な体制）					
事務局意見（総合企画財政課）	②事業内容の見直し（改善）を行う（または、行った）				
	【目標値・理由等】				
令和5年度から、他事例の収集等の内部検討会を立ち上げたい。					

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	農業担い手育成（次世代人材投資事業）	進捗状況	A	担当課及び係名	地域産業推進課 農業振興係
基本目標	2：添田町への新しい「しごと」の流れをつくる				
施策	（1）：農林業の振興を図る				
主要施策	①：担い手を育成・確保する				
事業概要	農業経営を始めて間もない新規就農者の所得確保、定着を図る				
R4年度実施内容	補助対象者 2名（令和4年9月分で終了）				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	1,875,000	1,875,000	0	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	補助金交付者 2名			
	事業効果	②地方創生に相当程度効果があった（目標値を上回ることはなかったものの目標値を相当程度（7～8割）達成した等）			
検証内容	【事業実績における理由・背景】				
	着実な就農、定着するために必要な支援を実施				
	【事業実施効果】				
	新規就農者として、定着に向けて、経営が継続できている。				
	【現状認識】				
新型コロナ禍で、新規就農者の所得確保が厳しくなっている。					
【今後の見通し・将来予測】					
現在の補助対象者は、令和4年9月で、補助対象期間が終了。 新たな対象者は、現時点では、いない。					
【事業改善予定等】					
今後の方針（担当課）	⑤当初予定通り事業を終了した				
	【目標値・理由等】				
現在、対象となるものがないため、終了となるが、対象者が現れ、その時点で、国庫補助事業があれば再開したい。 （町単費では、実施する予定はない）					
事務局意見（総合企画財政課）	⑤当初予定通り事業を終了した				
農業は本町の基幹産業の一つであるので、しっかりと改善に取り組むこと					

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	園芸農業等総合対策事業	進捗状況	—	担当課及び係名	地域産業推進課 農業振興係
基本目標	2：添田町への新しい「しごと」の流れをつくる				
施策	(1)：農林業の振興を図る				
主要施策	②：付加価値の高い作物づくりを推進する				
事業概要	パイプハウス等の施設や省力化機械導入に対して、福岡県の補助を活用し、支援を図る				
R4年度実施内容	補助対象者なしのため、未実施				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	0	0	0	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	—			
	事業効果	⑤事業の準備段階であるため効果不明（実績値がない等）			
検証内容	【事業実績における理由・背景】				
	受益者負担（50％）が伴うため、要望者なしとなった				
	【事業実施効果】				
	未実施				
	【現状認識】				
	新型コロナや気象の影響で、安定的な収入が見通せないため、施設投資が高額（1000万円以上）なため、自己負担（50％）の支出に躊躇していると見込まれる。				
今後の方針（担当課）	【今後の見通し・将来予測】				
	高収益型農業を展開するうえで、潜在的需要はあると見込まれる				
	【事業改善予定等】				
JAたがわ園芸部会等で、JAが需要の取りまとめをしているが、施設（ハウス）が少ない添田町では、なかなか投資に踏み出せないと思われる。					
事務局意見（総合企画財政課）	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】				
要望する農業者がいれば、福岡県と協議しながら予算化していきたい。					
③今年度と同様に事業を継続する					
評価なし					

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名		木材及びバイオマス利用推進	進捗状況	A	担当課及び係名	地域産業推進課 林業振興係
基本目標		2：添田町への新しい「しごと」の流れをつくる				
施策		(1)：農林業の振興を図る				
主要施策		②：付加価値の高い作物づくりを推進する				
事業概要		地域材を公共施設における内装材や机などの木製品を積極的に導入し、木材利用の促進と利用拡大を図る。乳幼児に木を活用した記念品を贈呈し、幼少期から木に触れる機会を与え木育につなげる。 林地残材のバイオマス利用を推進する。				
R4年度実施内容		保育園や町の施設に机や棚の木製品を導入した 新生児や卒園児に木製記念品を贈呈				
R4年度事業費（実績額）		金額	内 訳			
			国県支出金	地方債	その他	単費
		6,147,000	0	0	6,147,000 (森林環境譲与税)	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	庁舎、町内保育園等11施設に木製品を導入。申請時や卒園児に木製費年品を贈呈 6,147,000円				
	事業効果	①地方創生に非常に効果的であった（実績値が目標値を上回った場合等）				
検証内容		【事業実績における理由・背景】 国産材の価格低迷により木材産業の衰退とそれに伴う未整備森林の増加				
		【事業実施効果】 町施設の木質化による木材利用と木育の推進				
		【現状認識】 森林を多く有する町でありながら施設の木質化や木育の推進が進んでいなかった 保育園を中心に施設の木質化を行った結果、園児や保育士から好評をいただいた				
		【今後の見通し・将来予測】 学校建設に伴い、内装材や備品に添田産木材の利用を進め、併せて木育を進める				
		【事業改善予定等】 学校建設用木材の確保を町有林で確保する。量が不足する場合は、地域材で対応する。 また、バイオマス利用については、田川市に建設予定のバイオマス発電所の考慮し、事業実施を検討する。				
今後の方針（担当課）		①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる 【目標値・理由等】 学校建設に地域材を活用できるように関係機関と調整を進める				
事務局意見（総合企画財政課）		①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる 学校建設に留まらず、コストバランスを考慮したうえで、備品の購入検討時や公共施設の改修等が必要な場合、かつ木質化が可能な場合、積極的に木質化すること。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	県営農地整備事業（新規）	進捗状況	—	担当課及び係名	地域産業推進課 農業振興係
基本目標	2：添田町への新しい「しごと」の流れをつくる				
施策	（1）：農林業の振興を図る				
主要施策	③：生産基盤の整備と強化を推進する				
事業概要	耕作条件の悪い不整形な区画のは場を整備し、生産基盤の強化を図る				
R4年度実施内容	地元要望地区（2地区）で、地域内での事業参加同意を取得中				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	0	0	0	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	—			
	事業効果	⑤事業の準備段階であるため効果不明（実績値がない等）			
検証内容	【事業実績における理由・背景】				
	未実施（準備段階）				
	【事業実施効果】				
	未実施				
	【現状認識】				
	未実施（地元農業者が地域の仮同意書を取得活動中）				
今後の方針（担当課）	【今後の見通し・将来予測】				
	地元の同意取得が進んだ場合、福岡県と協議し、県営事業実施計画の策定に移行する（令和6年度を予定）				
	【事業改善予定等】				
事務局意見（総合企画財政課）	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】				
地元同意が取れれば、福岡県と協議し、事業実施に向けた予算要求をしていく予定であるが、新型コロナ禍の中で、会合等を自粛しており、同意取得が遅れている。					
③今年度と同様に事業を継続する					
評価なし（期間内には立ち上げ、運営を行うこと）					

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	荒廃森林再生事業	進捗状況	A	担当課及び係名	地域産業推進課 林業振興係
基本目標	2：添田町への新しい「しごと」の流れをつくる				
施策	(1)：農林業の振興を図る				
主要施策	③：生産基盤の整備と強化を推進する				
事業概要	長期間施業されていない森林を調査し、施業が必要な森林に対して間伐や侵入竹除去などの整備を行う。また、未植栽地には広葉樹を植栽し獣害対策を行い、翌年以降は下刈りを行い、植栽樹の生育を促す。 (福岡県の実施要項に基づく)				
R4年度実施内容	対象箇所の調査を行い、間伐や広葉樹の植栽を行う				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	107,877,000	107,877,000	0	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	調査面積284.66ha ・間伐53.69ha ・広葉樹植栽10.04ha ・下刈り22.07ha ・作業路開設3,000m			
	事業効果	①地方創生に非常に効果的であった（実績値が目標値を上回った場合等）			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 林業の衰退や林業者の高齢化等により長期間整備されずに放置された森林が増加				
	【事業実施効果】 森林の多面的機能の維持・増加が期待される				
	【現状認識】 森林所有者への整備や管理に関する意向調査を踏まえ、森林調査を行い森林の状況を把握し、森林整備を進めている				
	【今後の見通し・将来予測】 事業の実施により森林の多面的機能の維持と林業者の雇用の確保が期待される				
	【事業改善予定等】 なし				
今後の方針（担当課）	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】 事業実施期間内に計画的に町全域にある対象森林の整備を行う				
事務局意見（総合企画財政課）	③今年度と同様に事業を継続する 今後も計画的に事業を行うこと。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	森林環境整備事業	進捗状況	A	担当課及び係名	地域産業推進課 林業振興係
基本目標	2：添田町への新しい「しごと」の流れをつくる				
施策	(1)：農林業の振興を図る				
主要施策	③：生産基盤の整備と強化を推進する				
事業概要	自然災害や獣害被害などの自己の責任によらず植栽樹が被災した場合、再造林を支援し森林を再生することにより森林の公的機能の維持を図る。				
R4年度実施内容	被災した山林にスギやヒノキ、広葉樹の植栽 植栽した箇所の下刈りの実施				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	11,062,000	0	0	11,062,000	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	植樹2.42ha ・下刈4.66ha			
	事業効果	①地方創生に非常に効果的であった（実績値が目標値を上回った場合等）			
検証内容	【事業実績における理由・背景】				
	豪雨被害の増加やシカによる食害の増加により、伐採後植栽しても育たない状況がある				
	【事業実施効果】				
	食害防止ネットで防げなかった箇所にツリーシェルターを設置することにより食害被害が大きく軽減された				
	【現状認識】				
	要望が年々増加しているが、森林環境譲与税交付金の範囲内での事業であることから、実施箇所の選定が必要				
今後の方針（担当課）	【今後の見通し・将来予測】				
	森林環境譲与税の活用方法として、令和6年度までは学校建設の木質化に特化したいので、7年度以降再度実施をしたい				
	【事業改善予定等】				
事務局意見（総合企画財政課）	なし				
	③今年度と同様に事業を継続する				
事務局意見（総合企画財政課）	【目標値・理由等】				
	事業要望から優先順位を明確化し事業を実施する				
事務局意見（総合企画財政課）	③今年度と同様に事業を継続する				
	今後も計画的に事業を行うこと。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	添田町創業等支援事業	進捗状況	A	担当課及び係名	地域産業推進課商工業振興係
基本目標	2：添田町への新しい「しごと」の流れをつくる				
施策	(2)商工業の振興を図る				
主要施策	①雇用の場を創出する				
事業概要	添田町内で創業等を行う事業者に対し補助金を交付				
R 4 年度実施内容	創業支援数：4 件				
R 4 年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	5,500,000	0	5,500,000	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	創業支援数：4 件			
	事業効果	③今年度と同様に事業を継続する			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 ・創業支援、コロナ禍における新事業展開等の補助事業が行われている。				
	【事業実施効果】 ・創業等の相談については、商工会と連携し、きめ細やかな創業支援が行えている。				
	【現状認識】 ・認定支援機関である商工会による事業計画の策定等、総合的な創業支援等が行われている。				
	【今後の見通し・将来予測】 ・現状維持が望ましい。				
	【事業改善予定等】 ・今後も継続した支援を維持できると考える				
今後の方針（担当課）	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】 				
事務局意見（総合企画財政課）	③今年度と同様に事業を継続する				
	創業支援は本町にとって重要な事業であるため、今後もきめ細かな支援に取り組むこと				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	農産加工品開発支援事業	進捗状況	C	担当課及び係名	地域産業推進課 有害鳥獣係
基本目標	2：添田町への新しい「しごと」の流れをつくる				
施策	(3)：特産物の開発・ブランド化の推進を図る				
主要施策	②：特産物のブランド化を推進する				
事業概要	商品開発や販売促進、販路拡大等を行う活動に対し、経費の一部を助成する事業				
R4年度実施内容	実施中。1月末時点での商品開発（商品のリニューアル及びブラッシュアップを含む）の実績2品				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	200,000円	0	0	200,000円 (産業振興基金)	
本年度事業終了後における実績値	実績値	2品（11月末現在）			
	事業効果	①地方創生に非常に効果的であった（実績値が目標値を上回った場合等）			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 ・加工品製造者が商品開発や販路の拡大等を意欲的に行い、町の知名度やイメージ向上に繋がる活動を支援するため、事業を開始した。加工品の開発やラベルデザイン開発、商談に係る経費、商品分析に係る経費など幅広い分野で支援を実施中。				
	【事業実施効果】 ・加工品の開発、販売促進・販路拡大を支援し、地域ブランドの発展や町のPRにも繋がるものである。また、ふるさと納税の返礼品の登録も推進している。				
	【現状認識】 ・商工会と連携を図り、効果的な支援を行う				
	【今後の見通し・将来予測】 ・令和3年度及び令和4年度（11月末）においても目標の数値を達成。、令和5年度は、令和4年度の実績を踏まえ、商工会と連携し、事業の充実を図る。				
	【事業改善予定等】 ・なし				
今後の方針（担当課）	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】 意欲的な加工品製造者の活動を支援する事ができているので、令和5年度も引き続き商品開発や販売促進、販路拡大の活動を支援していく。				
事務局意見（総合企画財政課）	③今年度と同様に事業を継続する 担当課のとおり				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名		母子保健事業	進捗状況	A	担当課及び係名	保健福祉環境課 健康対策係
基本目標		3：結婚・出産・子育ての希望をかなえる				
施策		(1)：健康づくりの推進と地域医療の充実を図る				
主要施策		①：妊産婦や乳幼児の健康づくりを推進する				
事業概要		子育て世代包括支援センターにおいて妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を実施し、母子の健康増進を図る。				
R4年度実施内容		妊婦健康診査32件・母子手帳交付33件・乳幼児健康診査95件・1歳6か月児健康診査38件・3歳児健康診査29件・発達相談17件・産後ケア事業9件・新生児聴覚検査助成事業23件				
R4年度事業費（実績額）		金額	内 訳			
			国県支出金	地方債	その他	単費
		7,928,000	657,000	0	0	7,271,000
本年度事業終了後における実績値	実績値	妊婦健康診査32件・母子手帳交付33件・乳幼児健康診査103件・1歳6か月児健康診査38件・3歳児健康診査29件・発達相談17件・産後ケア事業9件・新生児聴覚検査助成事業23件				
	事業効果	②地方創生に相当程度効果があった（目標値を上回ることにはなかったものの目標値を相当程度（7～8割）達成した等）				
検証内容		【事業実績における理由・背景】 高齢及び若年妊娠出産など健康管理の必要な妊婦は増加傾向にある。そのため健康診査を充実させることが重要である。また妊娠期の健康はその後の児の成長発達に影響してくるので妊婦健診と継続して乳幼児の健康診査を充実させることも重要である				
		【事業実施効果】 妊娠全期を通して、定期的に健康診査を受けられるように14回の受診補助券を交付し、さらに医療機関と連携をとり妊娠中、出産後の健康管理を継続的に行う。また乳幼児においては発達の節目である乳児（4ヵ月、7ヵ月、12ヵ月児）健診、1歳6か月児健診、3歳児健診を実施することで、疾病や発達障害の早期発見ができ、同時に相談指導により乳幼児の健康増進と保護者の育児支援につなぐことができる				
		【現状認識】 母子保健法に基づき実施。				
		【今後の見通し・将来予測】 継続実施。				
		【事業改善予定等】 3歳児健康診査時において弱視等を早期発見治療につなげるため、屈折検査機器購入予定				
今後の方針（担当課）		③今年度と同様に事業を継続する				
		【目標値・理由等】				
事務局意見（総合企画財政課）		③今年度と同様に事業を継続する				
		法定業務のため継続する				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	子育て応援リユース事業	進捗状況	A	担当課及び係名	保健福祉環境課 子育て・障がい者支援係
基本目標	3：結婚・出産・子育てでの希望をかなえる				
施策	(2)：子育て支援の充実を図る				
主要施策	③：子育て家庭を経済的に支援する				
事業概要	子育て世帯で不要になった再利用できる様々な用品を譲り受け、他の子育て世帯のニーズに合ったものをリユースする。不用品リユースの可否を事前に確認し、用品の譲渡は無料活用していただくとともに、子育て世帯の情報交換の場としての利用も図る。				
R 4 年度実施内容	令和5年1月末時点 5/23～28開催 11組 21名 8/22～27開催 16組 32名 11/15開催 27組 73名 2/20～25に開催予定				
R 4 年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	0	0	0	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	令和5年1月末時点 54組 126名			
	事業効果	②地方創生に相当程度効果があった（目標値を上回ることにはなかったものの目標値を相当程度（7～8割）達成した等）			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 平成25年度より子育て支援センターの取り組みの一環として「衣類交換の日」を設け事業を実施中				
	【事業実施効果】 参加者同士の子育てに関する情報交換及び相談の場の提供として有効である。				
	【現状認識】 利用者については、町内外者の規制は設けておらず、サークル活動等についてもホームページや広報で周知を図り、参加者を募っている。 衣類交換によるリユースは子育て世帯の経済的支援の一助となっている。また、参加者同士の子育てに関する情報交換及び相談の場ともなっている。				
	【今後の見通し・将来予測】 子育て支援センターの取り組みの一環として継続実施が望ましい。				
	【事業改善予定等】 現状維持が望ましい。				
今後の方針（担当課）	③今年度と同様に事業を継続する 【目標値・理由等】 子育て親子の居場所づくり等の取り組みとして有効である。 新型コロナウイルス感染症の感染対策の徹底による事業継続が必要である。また、ホームページや広報による定期的な情報発信を行うことも必要である。				
事務局意見（総合企画財政課）	③今年度と同様に事業を継続する 担当課のとおりであるが、利用者には好評いただいているため今後も継続する。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名		児童館活動推進事業	進捗状況	B	担当課及び係名	社会教育課 児童館係
基本目標		3：結婚・出産・子育ての希望をかなえる				
施策		(2)：子育て支援の充実を図る				
主要施策		④：児童館活動推進事業				
事業概要		児童が日頃できない体験活動を行う機会を提供し、その体験を通して自信や積極性を持たせることを目指す。				
R4年度実施内容		わくわくイベント 13回 (1月～3月で3回開催予定) 華道教室：2回 オリジナルポーチづくり 2回 卓球教室：5回 折り紙教室：1回 ビーズアクセサリー：2回				
R4年度事業費（実績額）		金額	内 訳			
			国県支出金	地方債	その他	単費
		1,883,000	0	0	0	1,883,000
本年度事業終了後における実績値	実績値	イベント・教室 24回開催 (1月末時点)				
	事業効果	②地方創生に相当程度効果があった (目標値を上回ることにはなかったものの目標値を相当程度 (7～8割) 達成した等)				
検証内容		【事業実績における理由・背景】 新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度までは開催を中止せざるを得なかったが、今年度はおおむね予定通り開催できている。				
		【事業実施効果】 新型コロナウイルス感染症の感染対策として、1回の参加人数に上限を決めたり、同じイベントを午前と午後で2回開催したりしているが、参加者からは好評をいただいている。				
		【現状認識】 コロナ禍で減少していた利用者が少しずつではあるが、増加傾向にある。 1回のイベントの参加者に人数制限を設けているが、募集枠がすぐに埋まるので住民からは好評をいただいている。				
		【今後の見通し・将来予測】 月1回わくわくイベント、夏休み等の長期休暇中の各種イベント、多種の内容を実施することで、利用者や子供のニーズに伝えていく。				
		【事業改善予定等】 新しい内容のイベントや子供が興味のある事を検討する。				
今後の方針 (担当課)		③今年度と同様に事業を継続する				
		【目標値・理由等】				
事務局意見 (総合企画財政課)		③今年度と同様に事業を継続する 体験を通して自信や積極性を持たせることは子供の成長には必要なことであり、町民から好評をいただいているので今後も継続する。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	スクールソーシャルワーカー等 配置事業	進捗状況	A	担当課及び係名	学校教育課学校教育係
基本目標	3：結婚・出産・子育ての希望をかなえる				
施策	(3)：学校教育の充実を図る				
主要施策	③豊かな心と健やかな体を育む教育を推進する				
事業概要	いじめ、不登校、虐待等の様々な問題に対処するため、家庭環境や対人関係に着目し、社会福祉等の専門的知識と技術を用いて、子ども本人と子どもを取り巻く環境の両方の相談に応じ、各関係機関と調整・連携を図り環境の改善を図ること。				
R4年度実施内容	学校訪問、本人面談・家庭訪問にて、児童虐待や不登校などの継続的な助言やサポートを行う。 また、関係機関等への訪問を行い、学校での問題でなく家庭の事情だが、児童生徒に係わる問題になることが予想されることから、関係機関と連携を図り、児童生徒のケアを行う。 週2日／年92日（552時間）				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	2,915,360	233,000	0	0	2,682,360
本年度事業終了後における実績値	実績値	年間92日 各小・中学校で月2～3回程度ずつ訪問			
	事業効果	②地方創生に相当程度効果があった（目標値を上回ることにはなかったものの目標値を相当程度（7～8割）達成した等）			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 いじめ、不登校、虐待の様々な問題に対処するため、家庭環境や対人関係に着目し、社会福祉等の専門的知識と技術を用いて、子ども本人と子どもを取り巻く環境の両方の相談に応じ、各関係機関と調整・連携を図り環境の改善を図ること。 【事業実施効果】 SSWは、週2回来町し、学校を訪問し学校問題（不登校・いじめ等）や家庭訪問（児童虐待・貧困問題等）への対応を行い関係機関等へのパイプ役となり問題解決（好転）を図っている。しかしながら、難しい問題のため、早急に解決することは困難なことからも、継続的に事業を実施する形となる。 【現状認識】 現在、社会情勢は極めて不透明だが、すぐに情勢が改善されるとは思われず、さらなる支援活動が必要になる可能性があると考えられる。また、子どものいる家庭に限らず一般的な傾向として「コロナによる収入減」も、現状、考えられることから、早期支援ができるように関係機関と連携を図らなければならない。 【今後の見通し・将来予測】 学校の問題ではなく、社会情勢（コロナ、戦争、物価高騰）の見通しが立たないことが要因で、学校教育に支障をきたす児童生徒が突然現れた場合に、早期支援が出来るように、関係機関と連携をとる必要がある。 その他の、いじめ、不登校、虐待等についての対応として現状維持が望ましい。 【事業改善予定等】 なし				
今後の方針（担当課）	③今年度と同様に事業を継続する 【目標値・理由等】 事業の概要からも、事業を引き続き実施する。				
事務局意見（総合企画財政課）	③今年度と同様に事業を継続する 学校内で発生する諸問題に対して、子どもたちへのサポートや問題解決支援という面からSSWは必要であるため継続する。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	自主防災組織設立支援事業	進捗状況	A	担当課及び係名	防災情報管財課 防災安全係
基本目標	4：安全・安心をベースに誰もが活躍できる場をつくる				
施策	(1) 防災・危機管理対策の充実を図る				
主要施策	②自主防災力の向上を図る				
事業概要	地域の自主防災力の向上を図り、共助による避難誘導・避難所運営の取組を向上させ、災害時の逃げ遅れゼロを図る。				
R4年度実施内容	上落合一地区自主防災組織の設立完了及び、津野地区（3行政区）への設立支援。				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	0	0	0	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	令和4年度時点6団体			
	事業効果	②地方創生に相当程度効果があった（目標値を上回ることはなかったものの目標値を相当程度（7～8割）達成した等）			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 令和4年度には新たに上落合一地区に自主防災会の設置がされた。津野地区については3行政区での協議を進めており、まちづくり課の小さな拠点づくりと併せ、組織設置に向け協議を行っている。 各地区における説明会は、事業や要望等により実施しているが、コロナ対策もあり、全体的な説明会は開催できていない。				
	【事業実施効果】 令和4年度においては新城地区で研修会が実施され、上落合一地区においては5月に自主防災会が設置されたため、効果は出ていると見込まれる。				
	【現状認識】 全体的な説明会が開催出来ていないため、自主防災組織の普及啓発は行っていない。				
	【今後の見通し・将来予測】 新型コロナウイルスの感染拡大状況、対策状況を鑑みながら事業の継続を行っていく。				
	【事業改善予定等】 他事業との連携も図りつつ、行政区をまたぐ自主防災組織の設置、自主防災組織設置地域からの拡大等、支援内容を充実させていく。				
今後の方針（担当課）	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】 令和5年度時点で8地区設置の目標を達成できるよう、地区説明会の開催を行い、普及啓発を図りながら、組織設立の支援を行っていく。				
事務局意見（総合企画財政課）	③今年度と同様に事業を継続する 災害が多発する添田町では、令和5年度時点で8地区設置の目標を達成できるよう、地区説明会の開催を行い、普及啓発を図りながら、組織設立の支援を行っていくこと				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	添田町バス運行事業	進捗状況	B	担当課及び係名	まちづくり課 まちづくり推進係
基本目標	4：安全・安心をベースに誰もが活躍できる場をつくる				
施策	(2)：公共インフラの整備				
主要施策	①：地域の公共交通を維持する				
事業概要	・ 自家用有償運送（道路運送法第78条の2）によるコミュニティバス事業				
R4年度実施内容	・ 彦山線 6,793人（1月末現在）				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	22,322,000	0	0	1,132,000	21,190,000
本年度事業終了後における実績値	実績値	・ 彦山線 6,793人（1月末現在）			
	事業効果	②地方創生に相当程度効果があった（目標値を上回ることはなかったものの目標値を相当程度（7～8割）達成した等）			
検証内容	【事業実績における理由・背景】				
	・ 西鉄バス（添田交通）の廃路線の代替として平成15年から運行している				
	【事業実施効果】				
	・ 免許を持たない高齢者や学生の重要な移動手段であり、土日祝日は彦山駅から神宮方面への観光路線としても機能している				
	【現状認識】				
	・ 中元寺線、津野線は平成29年よりデマンド型乗合交通として運行しており、彦山線のための運行である				
今後の方針（担当課）	【今後の見通し・将来予測】				
	・ 日田彦山線BRTの運行開始にあわせ、路線が重複するため、大幅な見直しが必要である				
	【事業改善予定等】				
事務局意見（総合企画財政課）	・ 地域交通の利便性向上を図るとともに、町内すべての交通体系を網羅したマスタープランとなる地域公共交通計画の策定が必要である				
	③今年度と同様に事業を継続する				
事務局意見（総合企画財政課）	【目標値・理由等】				
	・ BRTに伴う交通体系の見直し				
	・ 添田町地域公共交通計画の策定				
事務局意見（総合企画財政課）	③今年度と同様に事業を継続する				
	交通手段が脆弱な本町においては必要な事業であるため、引き続き継続とする。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	デマンド型乗合タクシー運行補助金	進捗状況	A	担当課及び係名	まちづくり課 まちづくり推進係
基本目標	4：安全・安心をベースに誰もが活躍できる場をつくる				
施策	(2)：公共インフラの整備				
主要施策	①：地域の公共交通を維持する				
事業概要	中元寺地区と津野地区を対象に自宅付近の運行ルート上から決められた目的地まで送迎する予約制乗合タクシー事業				
R4年度実施内容	中元寺区域 471人 上津野区域 129人 下津野区域 173人 773人(1月末現在)				
R4年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	5,725,000	0	0	0	5,725,000
本年度事業終了後における実績値	実績値	773人(1月末現在)			
	事業効果	②地方創生に相当程度効果があった(目標値を上回ることはなかったものの目標値を相当程度(7~8割)達成した等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】				
	・町バスからの転換により、中元寺区域、津野区域(上津野、下津野)でデマンド型乗合タクシーを運行している				
	【事業実施効果】				
	・免許を持たない高齢者の重要な移動手段となっている				
	【現状認識】				
・高齢女性の利用がほとんどである					
【今後の見通し・将来予測】					
・利用者が減少しているため、地域住民へ引き続き周知を図る					
・利便性の向上を図るための、見直しも必要である					
【事業改善予定等】					
・地域交通の利便性向上を図るとともに、町内すべての交通体系を網羅したマスタープランとなる地域公共交通計画の策定が必要である					
今後の方針(担当課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】				
・免許を持たない高齢者等の交通手段の確保					
・添田町地域公共交通計画の策定					
事務局意見(総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	交通手段が脆弱な本町においては必要な事業であるため、引き続き継続とする。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	地域生活支援事業	進捗状況	A	担当課及び係名	保健福祉環境課 子育て・障がい者支援係
基本目標	4：安全・安心をベースに誰もが活躍できる場をつくる				
施策	(3)：地域共生社会の実現を図る				
主要施策	①：社会参加と生きがいづくりを支援する				
事業概要	障がいのある人が地域において自立した生活を送ることができるよう、地域の特性や利用者の状況に応じて市町村が柔軟に実施する事業として、10の必須事業と任意事業があり、障がい者（児）の福祉の増進を図るとともに、安心して暮らすことのできる地域社会の実現を目指す。				
R4年度実施内容	必須事業＋任意事業（3事業）を実施				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	7,884,000	3,192,000	0	0	4,692,000
本年度事業終了後における実績値	実績値	必須事業＋任意事業（3事業）を実施			
	事業効果	①地方創生に非常に効果的であった（実績値が目標値を上回った場合等）			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 本町の実情に応じた地域生活支援事業を実施				
	【事業実施効果】 本町の実情に応じた事業が行えている。				
	【現状認識】 本町の実情に応じた事業が行えている。				
	【今後の見通し・将来予測】 現状維持、継続実施が望ましい。				
	【事業改善予定等】 現状維持、継続実施が望ましい。				
今後の方針（担当課）	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】 現状維持、継続実施が望ましい。				
事務局意見（総合企画財政課）	③今年度と同様に事業を継続する 法定業務のため継続				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	シニアパワーアップ塾の拡充	進捗状況	B	担当課及び係名	社会教育課 文化振興係
基本目標	4：安全・安心をベースに誰もが活躍できる場をつくる				
施策	(4)：社会教育・生涯学習の推進を図る				
主要施策	①：自ら求め、学び合う生涯学習活動を推進する				
事業概要	高齢者の長年培った経験や技術、特技を集約した教室を開校し、そこで受講した高齢者（塾生）が、その技術を地域で発揮させ、生きがいに役立てる仕組みを構築する。				
R4年度実施内容	・英峰日進塾等学習支援員派遣 ・学童保育所学習支援員派遣（昔あそびの実施・落合小学童） ・寄せ植え講座（予定） ・竹灯籠づくり				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	260,000	0	0	0	260,000
本年度事業終了後における実績値	実績値	53名（うち令和4年度6名入塾）			
	事業効果	③地方創生に効果があった（目標値を上回ることにはなかったものの事業開始前よりも改善した等）			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 体調不良等による退会があったが新規の募集により新規入塾者の確保ができた。				
	【事業実施効果】 新規塾生の募集をシニアパワーアップ塾の活動内容の説明とともに広報や婦人会の集まりなどで行った。応募は少なかったが塾生の確保へ繋がった。				
	【現状認識】 地域のボランティアや世代間交流などの活動は、参加者の生きがいに繋がり、学習支援をすることで、脳の若返りにも繋がる。				
	【今後の見通し・将来予測】 新規塾生を今後も募集し、まちづくりボランティア等への参加や地域活動などを通しての世代間の交流など、シニア世代が活躍できる社会の実現をめざす。				
	【事業改善予定等】 シニアパワーアップ塾の活動を周知し、継続して塾生を募集するなどいつでも活動に参加できるような体制するなどして塾生の増加へと繋げていく。また、ボランティア活動だけでなく、地域活動に繋がる事業なども取り入れていく。参加したいと考えているが、どうやって参加したらいいのかわからない人や、体力がいるなど体を使うことが苦手な人もいるかもしれないので、取り組み内容を考えるとところもシニアの人たちに関わってもらって、充実した事業を進めていけるようにする。				
今後の方針（担当課）	③今年度と同様に事業を継続する 【目標値・理由等】 シニア世代の活動の場づくりのため				
事務局意見（総合企画財政課）	③今年度と同様に事業を継続する 高齢化率が高い本町にとっては、シニア世代にも積極的に様々なことに挑戦してもらい、町を活性化してほしいという狙いから今後も継続する。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	生涯学習講座開設事業	進捗状況	B	担当課及び係名	社会教育課 文化振興係
基本目標	4：安全・安心をベースに誰もが活躍できる場をつくる				
施策	(4)：社会教育・生涯学習の推進を図る				
主要施策	①：自ら求め、学び合う生涯学習活動を推進する				
事業概要	自主講座の支援及び公民館主催講座の開設を通じて、住民の学びの場を提供し、もっと生きがいのある人生を築き、うるおいのある地域づくりを目指す。				
R4年度実施内容	ピアノ初心者講座 IHクッキング講座 薬と健康セミナー				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	174,000	0	0	0	174,000
本年度事業終了後における実績値	実績値	3講座 開催回数合計20回 参加人数合計107名			
	事業効果	③地方創生に効果があった（目標値を上回ることにはなかったものの事業開始前よりも改善した等）			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 新型コロナで制限されることもなく、公民館講座も自主講座も実施できている。講座によっては高齢化となって閉講となる講座もあるが、各講座は参加者のコミュニケーションの場ともなっている。				
	【事業実施効果】 講座に参加することで、参加者の生きがいづくりや交流の場となる。				
	【現状認識】 ホールに大きな催事や町主催の行事で定期の講座の予定変更をお願いしなければならない。体を動かす講座や手作り系などの講座など、様々な自主講座が開催されている。				
	【今後の見通し・将来予測】 身体を動かしたり、物を作ったりすることは町民の生きがいづくりの場や健康維持には必要であり、広報等で町民への講座の周知を図る。今後も新たな学習の場の提供を行うために、新規講座やセミナーの開講を行っていく。				
	【事業改善予定等】 新しい講座の開講や広報で活動内容の報告をし、新たな参加者の募集へ繋げる。				
今後の方針（担当課）	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】				
事務局意見（総合企画財政課）	③今年度と同様に事業を継続する 担当課のとおり				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	みんなでまちづくり推進事業	進捗状況	B	担当課及び係名	総合企画財政課 政策企画係
基本目標	4：安全・安心をベースに誰もが活躍できる場をつくる				
施策	(5)：協働のまちづくりの推進を図る				
主要施策	①：協働のまちづくりを推進する				
事業概要	第6次総合計画では10年度の将来像として「いつまでも健康で住み続けられる・住みたくなるまち」を掲げ。その実現に向けた合言葉として「みんなでまちづくり」を掲げている。 本事業は、協働のまちづくりを推進するために、町民と行政を繋ぎ、両者が伴走することで「みんなでまちづくり」を行う取組の仕組みづくりを行うための事業である。				
R4年度実施内容	第1回 9月 2日 10年後を見据えて、いま添田に求められていることについて 第2回 9月26日 この会議の最終目的、そのために何に取り組んでいくべきか 第3回 10月11日 「計画づくり」ではなく「組織づくり」を行う 第4回 11月14日 組織づくりに向けての理念・定款・体制について 第5回 12月 7日 「みんなでまちづくり」事業の理念について 第6回 1月16日 「稼ぐ」ということの重要性について 以上について、会議参加者と話し合いを行い、「みんなでまちづくり」事業の仕組みづくりを行った。 また、10月8日、9日に町内の「もくもくまつり」参加者へ、添田町の魅力等についてのアンケート調査を実施した。				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	1,782,000	0	0	0	1,782,000
本年度事業終了後における実績値	実績値	町内イベントでのアンケート調査：1回（添田町へのニーズ等の把握のため）			
	事業効果	みんなでまちづくり会議：6回開催			
検証内容	②地方創生に相当程度効果があった（目標値を上回ることにはなかったものの目標値を相当程度（7～8割）達成した等） 【事業実績における理由・背景】 まちづくり事業に取り組む前に、組織（チーム）として目的・目標を統一するためにメンバー共通の理念を制定した。その後制定した理念に基づいて取り組む事業内容を決定し、取り組む予定である。 【事業実施効果】 メンバーが今後、共に事業を継続的に行っていくために必要な認識・理念が共有できたため、今後取組を行う際に、より協働のまちづくりの推進が期待できる。 【現状認識】 A.人材育成、B.人材ネットワーク、C.コンサルティング、D.情報発信、E.商品販売・サービスという5つを取組の柱としてを掲げ、取組事業の内容を選定中である。 【今後の見通し・将来予測】 メンバーに伴走する形で行政が支援を行う。 そして今後もまちづくりを継続的に行える組織（チーム）を設立し、自ら収益を上げることで行政の支援がなくなっても継続して活動を行えるようにする。 【事業改善予定等】 今後はメンバーと協議を行いながら、参加人数を拡大しつつ積極的に事業に取り組んでいきたい。				
今後の方針（担当課）	③今年度と同様に事業を継続する 【目標値・理由等】 今年度は組織（チーム）としての一体感を高めるための協議を行ってきたので、来年度から本格的に協働のまちづくりに取り組んでいきたい。				
事務局意見（総合企画財政課）	③今年度と同様に事業を継続する 担当課のとおり				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	小さな拠点づくり事業	進捗状況	C	担当課及び係名	まちづくり課 まちづくり推進係
基本目標	4：安全・安心をベースに誰もが活躍できる場をつくる				
施策	(7)：協働のまちづくりの推進を図る				
主要施策	②：地域の実情に合わせたコミュニティ活動を支援する				
事業概要	・地域の連携や持続可能なコミュニティとしての地域力の向上を図るため「小さな拠点づくり」を進める				
R4年度実施内容	・津野地域をモデル地域に小さな拠点づくりを進めるため、地域の困り事解決と地域の活動量の維持ための取組を検討				
R4年度事業費（実績額）	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	2,970,000	0	0	0	2,970,000
本年度事業終了後における実績値	実績値	地域運営組織（小さな拠点）形成数 0			
	事業効果	③地方創生に効果があった（目標値を上回ることにはなかったものの事業開始前よりも改善した等）			
検証内容	【事業実績における理由・背景】				
	・少子高齢化が今後、さらに進む地域で、地域の困りごとや課題解決、またコミュニティが希薄化する中で地域の活動量の維持に向けた取り組みを地域と行う				
	【事業実施効果】				
	・地域の課題解決、地域の活動量維持のための取組の検討し、年度末に向けて将来ビジョンを作成を目指した ・上津野地域にて、地域の困り事を解決				
	【現状認識】				
	・小学校の休校、保育園の閉園、農協の閉鎖など、津野地域では少子高齢化が顕著であり、今後はさらに進むと推測される ・上津野、中津野、下津野での地域間の温度差が感じられる ・コロナ禍もあり、地域活動がなかなか行えていない				
今後の方針（担当課）	【今後の見通し・将来予測】				
	将来ビジョンの作成を目指す				
	【事業改善予定等】				
・地域の課題解決、地域の活動量維持のための取組を進めるためのビジョンを作成する					
事務局意見（総合企画財政課）	②事業内容の見直し（改善）を行う（または、行った）				
	【目標値・理由等】				
・地域の課題解決、地域の活動量維持のための取組を進めるためのビジョンを作成する					
事務局意見（総合企画財政課）	③今年度と同様に事業を継続する				
	地域運営組織の立ち上げは相当の時間がかかるものであり、引き続き根気よく地域住民との対話を重視しながら取り組むこと、				